

# 27PA-am112

## 医療機器に関する学習補助用映像資料の開発と評価

○田辺 公一<sup>1,2</sup>, 折笠 秀樹<sup>3</sup>, 西谷 美幸<sup>3</sup>, 八塚 美樹<sup>3</sup>, 安田 智美<sup>3</sup>, 新田 淳美<sup>1</sup>, 細谷 健一<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>富山大院薬, <sup>2</sup>名城大薬, <sup>3</sup>富山大院医)

【目的】現在の薬学教育において、医薬品の投与に用いられる医療機器および医療材料（以下、医療機器材）に関する教育は手薄である。本研究では基礎知識を習得すべき医療機器材の抽出、学習用 DVD、及び基礎知識の習得度を測定するための知識尺度（質問紙）を作成し、DVD の有用性を明らかにすることを目的とした。

【方法】がん医療に携わる医療者（医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士）10 名にてフォーカスグループディスカッションを行い、録音された会議録より内容分析にて対象とする医療機器材を抽出した。同時に評価用の知識尺度の作成を行い、全国の薬学部を持つ大学へ送付して回答を依頼した。DVD 視聴群と非視聴群をランダムに決定し、DVD 視聴群には視聴前後に知識尺度への回答を求めた。非視聴群には、約 2 週間の間隔をあけて、2 回の回答を依頼した。得られた結果を集計し、t 検定および効果量（ES）にて DVD の有用性を判定した。

【結果】73 大学（うち、37 大学へは DVD も送付）へ 1 回につき 2331 枚の質問紙を配布し、44 大学より回答を得た。うち、1 大学は 1 回目のみ返信があった。質問紙の回収率は、全体で 35.2%であった。DVD 未視聴状態の学生の質問紙正答率は  $31.9 \pm 23.7\%$ （平均±標準偏差）であった。DVD 未視聴群では、1 回目と 2 回目の調査で正答率に有意差は認められなかったが ( $32.1 \pm 23.7\% \rightarrow 31.8 \pm 24.4\%$ ,  $P=0.75$ ,  $ES=0.01$ )、DVD 視聴群では 24.6 ポイントの有意な上昇を認めた ( $33.1 \pm 23.7\% \rightarrow 55.7 \pm 24.3\%$ ,  $P<0.001$ ,  $ES=1.00$ )。

【結論】本研究より、我々が作成した学習補助 DVD の有用性が明らかになった。自由記述では、映像や音声の不鮮明さ等、ハード面や書籍化に関する指摘が多かったことから、本 DVD の更なるブラッシュアップと、書籍教材の必要性が示唆された。